

## 議会改革・活性化調査特別委員会記録【概要】

1 日 時 令和6年11月26日（火曜日）

午後 1時00分 開 会

午後 1時36分 閉 会

2 場 所 第2委員会室

3 出席委員

委員長 伊藤優子	副委員長 神野恭多
委員 黒田真徳	委員 合田晋一郎
委員 藤田誠一	委員 山本健十郎
委員 高塚広義	委員 伊藤謙司
委員 大條雅久	

4 欠席委員

委員 片平恵美

5 説明のため出席した者 な し

6 議会事務局職員出席者 局長 山本知輝 課長 徳永易丈

副課長 鴨田優子 係長 伊藤博徳

係長 村上佳史

7 その他出席議員 な し

8 本日の会議に付した事件 (1) 議会改革・活性化に関する調査

9 概 要

（委員長）本日の委員会は、議会の組織構成に関すること、議会の機能強化に関すること及び行政視察について、ご協議いただく。

まず、議会の組織構成に関することについて、協議をお願いします。議員定数について、会派等で話し合っていたと思うが、皆様からの意見を聞く前に、今後の流れについてご協議いただきたい。前回の委員会で、当特別委員会で結論を出したいという意見があったが、委員会としての結論をどのように出すか、私としては、委員全員の意見が一致しない場合は、多数決により特別委員会としての結論を出したいと考えている。

また、結論としては、削減か現状維持、削減の場合は、削減人数は何人か、ということになるのかと思っている。なお、定数削減で全会一致の場合は、当特別委員会として議案を提出したいと思う。また、全会一致とならない場合は、当特別委員会の結果を議会運営委員会に報告し、取扱いを委ねたいと思う。このようなことで、進めたいと考えているがよいか。

[ 了 承 ]

(委員長) それでは、そのようなことで進めていく。それでは、アンケート結果を含め、これまでの議員定数に関する各種資料を参考に、会派で協議したと思うので、皆様から意見をいただきたい。

(委員) 会派で先日集まって話し合った。議員定数の削減については、削減不要との意見もあったが、最終的には削減をするということで2名の削減若しくは4名の削減ということで会派内で採決を行った。5対6で4人となった。

(委員) 私たちの会派は前回どおりというか、今回についても再度話し合う機会を持ち、市民の声をしっかり届けていくのも議員の務めであるということを中心に考えて、今の定数が非常にいいのではなかろうかということと、行く先々で議員が動いてくれるということで、私たちの声も生かされているという声もあるので、現状のままでいいのではないかとということで意見が一致している。ここで、大方削減ということでいくのであれば、その時はもう一度持ち帰り考えさせていただく。

(委員) うち3人だが、2人は現状でいいと、まだ増やしたいという人もいる。なので、現状維持である。

(委員) 私たちは、4人削減がいい。2か4かという話もあるが、2人から4人削減ということもありかなということもあったが、案としては4人である。

(委員) 会派で話した中で4人減らすことになったが、なぜかというのと、その分議員報酬を増やすということと同時に、4人削減するなら議員報酬を上げてという話をしている。だから、ただ単に減らすだけではなくて報酬も手を付けてほしいという話になっている。

(委員) 私は自分がアンケートに書いたのは、定数を削減するなら3万から5万くらい上げる。定数削減はいくらしたとしても2人まで。

(委員) 私たちの会派は4人減らすのが6人で、2人減らすのが5人である。非常に微妙な線なので、2から4という間で多い方に偏る人もいるし、2人以上の削減はきついのではないかと人もいる。ただ、報酬に関しては、だいぶ議論も出たし、これまで議員定数を減らしてきたが報酬も減らされてきている。この十何年で言えば。果たしてこれで若い人、新しく議員になろうという方が手を挙げてくれるかなと不安の声もあった。

(委員) 昔は各期で必ず市民が各界の代表が定数削減について議論をしていた。最近、市民から定数削減をしろという話を聞くか。私は、最近聞かない。昔は公民館に入っていったら、話をやめる、何を話していたの、定数のこと、と聞くと笑う。その辺が以前とは違うと思う。なんぼでも減らしたらいいというのではないと思う。

(委員長) 先ほどから、2人から4人という話もあるし、他の会派の人もそれだったら飲めるのではないかとということもあると思う。私からの提案だが、2人だったら皆さん一致できるか。

(委員) 定数減だったらもう一度持ち帰ってになるのか。とりあえず今のところは現状維持である。多数の意見で削減ということであればもう一度持ち帰ってその方向で考えてみるということである。

(委員) 会派の中で出たのは、削減の話は今回で最後にしたいという意見は多く出た。ただ、適切なのが何人かという中で2人という案と4人という案と採決をしたが、いずれにしても人数を減らすことだけが議会改革ではないと。一方で報酬の話が出たのは、なるべく多くの方が、新しい方、特に現役世代の30代、40代の方が議員になって新居浜市の将来について、頑張ってみようという方を掘り起こしていきたい。そのためには、子育て世代が議員になれる安心感を用意しないといけないんじゃないかという議論があった。

(委員) 持って帰らずに多数決で決めたらいいのではないかと。どちらにしても、欠席の方もいるが、全会一致にはならないと思うので。

(委員) 繰り返しになるが、2とかいう形で一つの妥協案になると思うが、そちらの会派は6名が4人減、私たちも4人減ということでいくと一定数が4ということなので、可能であれば、削減かどうかというのは決まればいいが、人数は今回で決を採るのはなかなか難しいと思う中で、最終的には2人から4人で提案というのができないかなと思う。

(委員長) そちらの会派は全員それでいいのか。

(委員) : はい。

(委員長) 欠席の方がいるが、削減する方向だけ決を採るか。

(委員) そちらの会派はいいのか。会派の中で現状でと決まったなら、会派に持って帰らずに減と決めて、二人来ているが、会派に帰ったら何をしていたのかとならないか。

(委員) 会派の数で多数決を取るのか、委員の数で多数決をとるのか。

(委員長) 委員である。

(委員) 委員の数ということで、今初めて聞いたことだが、委員の数で多数決を取るのがここで決まったのなら、問題ないと思う。

(委員) 最終、議会運営委員会で揉まれるんでしょ。

(委員) そうなんだけど会派で決めたことは、ある程度僕らは尊重してやらないといけないと思っているので。現状維持と削減は真逆だから。

(委員) 委員が言うように、大事なことなので、ここで決を採るのは。

(委員長) それは、多数決で意見を言って、議会運営委員会で揉んでもらうという話だから。

(委員) 非常に大事なことから最後は議会で投票しないとけない。

(委員長) 前回の委員会の中で、一応ここで結論を出そうという話になったので。削減するに賛成の方は挙手をお願いします。

[ 挙 手 ]

(委員長) 削減するに賛成の方は8人中5人である。ここでは、削減と決まった。そちらの会派は会派に持ち帰り、何人削減か話し合ってくれるか。委員も持ち帰り話し合ってもらいたい。

(委員) そうする。

(委員) どういう決め方をするのか決めておいてほしい。会派で多数決をするのかどうか。

(委員長) 会派の多数決はない。委員一人一人できめる。

(委員) そういうやり方で決めるというのを決めておいてほしい。

(委員) 最後は条例案として本会議にかけて26人の多数決で決まることだから。提案を誰がどういう形でという手続きの話が、特別委員会のこの場が提案の場になるかメンバーになるか、もしくは議会運営委員会で提案をするのか、そういう違いはあるが最終的にきまるかどうかは、本会議で26人で多数決となると思う。

(委員長) 一応、この特別委員会で決めると言ったので、この場での結果を尊重していただくということになるかと思う。特別委員会で決めたことを本会議で多数決になると思う。

(委員) このことについて、今日で終わるのか。

(委員長) もう一回ある。

(委員) 次は、委員会数で多数決で決めるのか。

(委員) 人数も2人なのか4人なのか決めると思う

(委員) 多数決をどこまでするのか、今日決めておいてほしい。まず、削減か現状維持かをして。

(委員長) そこまで。

(委員) 決まったら、削減人数も委員数の多数決で。

(委員長) 了解した。

(委員) 議会事務局に聞くが、議会改革で、1にするのか2にするのか4にするのか、決めて議会運営委員会に送るんでしょ。それを、諮るか諮らないかした中で、あとは賛成、反対、決めるわけでしょ。この前も定数2人の削減を提案して反対だったね。そういうことよね。

(委員長) そうだ。

(委員) 人数に関しては、報酬とのセットは報酬審議会があるので難しい話かもしれないが、それは裏で持っておきながら、この4、2でいうので、例えば、4名の削減の条例と2名の削減の条例、両方出すことも可能か。

(委員長) 可能だ。

(委員長) 全会一致になれば、今日欠席でならない方もいるが、そういう形でいければ私としても喜ばしいことなので、よろしく願います。次の会で決めたいと思う。報酬については、次回の会の結果を踏まえ検討したいと思う。

(委員長) 次に、議会の機能強化（ICT活用）について、ご協議いただきたい。現在、タブレット端末の導入による会議での資料閲覧、ラインワークスでの連絡・掲示等、XやLINEなどSNSでの議会情報の発信、本会議等のインターネット配信などを行っているが、ICTを活用した新たな取り組みなどについてご意見があれば願います。

(委員) コロナの時、タブレットで会議もしてみようと何回かしたが、コロナが終わったらみんな忘れてしまって、なくなってしまった。民間の企業はリモートで仕事をしているのはいくらでもある。その辺を考えたらいいと思う。

(委員長) 今は特別な場合だけできるということになっているので、また調べてどういう風な形になるかということをお知らせしたいと思います。あとでご案内しますが、当特別委員会の行政視

察でもICTの取り組みについて視察を行いたいと考えておりますので、その内容も参考にして検討したいと思えます。

(委員長) 行政視察の日程は、1月29日(水)から31日(金)までの2泊3日で、視察先及び調査項目は、記載のとおりである。この内容で実施してよろしいか。

[ 了 承 ]

(委員長) 諸般の事情により変更が生じた場合は、委員長に御一任いただきたい。正式な案内通知等は、後日事務局より配付する。これからすぐにホテル等の予約を入れる。もし、今後、変更等があれば、キャンセル料金がかかることになる可能性もあるので、速やかに事務局まで連絡をお願いします。視察資料をタブレットで閲覧できるようにしたいと思うので、全員、タブレットをお持ちいただきたい。本日は、これにて閉会する。